

平成28年度第4回佐倉市公民館運営審議会会議要録

日時：平成29年2月27日（金）午後1時30分～午後3時30分

会場：佐倉市立中央公民館

出席者：中原章子委員、天本憲亮委員、沼田正信委員、鷹野千恵子委員、大野直道委員、高梨直子委員、奥津友子委員、慶田康郎委員長、日向和夫委員、村上勲委員、佐藤光雄委員、楠芳明委員、松井強委員、（13人）

事務局：中央公民館長・江波戸寿人、和田公民館長・小暮達夫
弥富公民館長・塚本貞仁、根郷公民館・松田富美子主査補
志津公民館長・井原健一、臼井公民館長・柳田晴生
社会教育課・松橋義己社会教育主事、富田 健一郎主査
中央公民館・和泉澤文祥主査補、泉慎一主任主事

【目次】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事
 - ・平成28年度公民館事業評価について
 - ・平成29年度佐倉市公民館運営審議会計画(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

【本文】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事
 - ・平成28年度公民館事業評価について
 - ・平成29年度佐倉市公民館運営審議会計画(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

3 議 事

江波戸館長：

議事に入る前に、本日、傍聴を受け付けましたところ傍聴の申し出はありませんでしたので、このまま進めさせていただきます。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。佐倉市立公民館の設置及び管理に関する条例第12条第2項で、委員長は会議を総理すると定めておりますので、慶田委員長にこの後の議事の進行をお願いいたします。慶田委員長、よろしくをお願いいたします。

3 議事

委員長：

それでは、議事に入ります。本日、松崎委員、浅井委員の2名が欠席と伺っております。このため、今回の会議録署名人につきましては、名簿順で、天本委員、高梨委員をお願いしたいと考えております。

それでは、各館の事業について説明をお願いします。まずは、中央公民館、弥富公民館、和田公民館の順で、3館に説明してもらい、その後、一括して質疑応答を行いたいと思います。

江波戸館長：

中央公民館長の江波戸でございます。中央公民館の家庭教育事業における事業評価について説明させていただきます。

お手元の「ジャンル内事業一覧」の、中央公民館「家庭教育事業」をお願いします。中央公民館で実施しましたのは、「3歳児親子あそびうた教室」の1事業です。3ページの「佐倉市公民館事業の評価シート」をお願いします。

中央公民館の家庭教育事業は、「身体で手本を示せる、学んだことを日々の生活で生かしながら、子どもの創造性を大切に、友だちづくりや他の親子との交流を図ること」を目標に掲げ、学びや音楽、体操を通して体と豊かな感受性、好奇心を育むと共に、同年齢の子と保護者の触れ合いや交流する場を提供する場として講座を開設しています。

具体的には、音楽を使ったリトミックを中心にカリキュラムを構成しております。幼児の感受性や好奇心、参加者の触れ合いに繋がるような講座運営に努めました。

26年度の事業開設以来、翌年度の事業実施にあたっては、前年度のアンケートや反省結果を踏まえ講座の見直しを適宜行ってまいりました。この間の講座経緯としましては、27年度には、講座回数を増やすほか、読み聞かせを取り入れました。28年度の実施にあたっては、同一講座を2回開催し、多くの方が参加しやすい環境を整えるほか、音楽と読み聞かせの回を分けるだけでなく、読み聞かせは会場を和室に変える等の学習環境の見直しを行い、同年齢の子と保護者の触れ合いや交流する場の充実に努めてまいりました。

その結果としまして、15組の応募に対し、それぞれ15組と21組の参加を得ることが出来ただけでなく、前回よりもバリエーションのある内容の事業提供が出来たのではないかと考えております。

他方で課題もあります。本講座では、音楽を使ったリトミックと読み聞かせにより全5回のコースを2回開設していますが、他館の同様な講座では、多目的な事業を盛り込んだ長期間の講座開設となっています。

このような状況と参加者アンケート等を踏まえ、学習目標を達成するためのより良い事業の企画・立案に継続して取り組んでいく必要があります。

しかしながら、さきほどご説明しました成果と勘案しまして、総合評価としてはAとさせていただきます。私からは、以上でございます。

引き続き、泉から、家庭教育事業「3歳児親子あそびうた教室」についてご説明いたします。よろしくお願いいたします。

泉主任主事：

中央公民館の泉と申します。「家庭教育事業」のうち「3歳児親子あそびうた教室」について報告をさせていただきます。

報告の概要は4つに分かれます。スライドをご覧ください。

開設にあたって、担当の思いとしましては、子育てで孤立しがちとなる保護者に対して、交流をはかりたい。親子のあり方を考えるためのきっかけづくりをしたい。という、子育て世代へのニーズを考えて事業を発進させようと考えました。

なお、いま述べましたことは「第2次・佐倉市公民館活動計画」や「中央公民館事業計画」ともリンクする形になると考えます。

たとえば、本講座をきっかけとしてお母さんどうしで育児について意見交換したり、3歳のお子さんが同年代の子どもとふれあったり、講師とお母さんと

の意見交換の場・交流の場を公民館が提供できれば、と考えました。

事業の開設趣旨はスライドと配布資料のとおりです。

「手遊び、音楽(リトミック活動)、体操を通して健やかな体と豊かな感受性、好奇心を育み、同年齢の幼児の触れ合い、保護者と幼児との触れ合い、保護者と保護者が交流する場として学習講座を開設する」というものです。

つぎに、昨年度の振り返りをアンケート結果の分析から行います。

「もう少し回数があると嬉しい。」「1年間続けて欲しい。」「バリエーションが欲しい」という意見が多数ありました。そこで、今年度からは多くの方に機会を提供できるように、6・7月と11・12月との2つの季節に開催しました。対象は同じ3歳児ですが、リピーターも2組おられました。また、手遊び、エプロンシアターなど、バリエーションを増やして内容を充実させることも考えました。大ホールでの最終日には、子どもが壇上にあがってグランドピアノに触れる機会も持ちました。さらに12月の最終日には先生と保護者の意見交換の場を設けました。

次に、事業の実施内容に移らせていただきます。お手元の資料とあわせてご覧ください。全部で前期5回、後期5回の予定でしたが、後期5回のうち1回目の11月24日は、雪のため中止となりました。そのため、実際には9回となっています。内容は大ホールでの運動・リトミック・音楽、と和室での絵本の読みきかせ・エプロンシアター等に分かれます。本年度につきましては、募集人数は各々15組に対して前期は15組、後期は21人の応募と出席がありました。定数は15組でしたが、講師との話し合いにより後期は直前参加者も受け入れました。

前半の実施内容です。

①先生が子どもの名前を読み上げて出席をとります。先生と子どもとのハイタッチから始まります。②子どもたちとお母さんたちがピアノの音楽に合わせて大ホールを歩きます。③体操を通じて、お母さんとお子さんとのコミュニケーションをはかります。④サーキットの様子です。跳び箱・輪・マットをごろごろ転がったり、シーツの下をくぐります。サーキットは、ピアノの音楽にあわせて進めます。子どもたちも笑顔で活発に動きまわっていました。

時間の進行により時にはボールをだして子ども達も楽しく体を動かしていました。おかあさんといっしょに少し負荷をかけた運動も行いました。後半はピアノに合わせて歌ったりしました。

最後にはみんなで輪になって「さよならあんころもち」をしてお別れをします。これは和室での終了でも同じで、「さよならあんころもち」をして、全部の回を締めました。

次に後半の和室での絵本の読み聞かせ・手遊びです。最初にみんなで七夕のかざりを作りました。絵本やお話をしてコミュニケーションをはかりました。

講師の「エプロンシアター」は好評でした。エプロンのポケットをお風呂にみたてて、大根やニンジンなどのキャラクターがお風呂にはいってきれいになっていく様子を子供たちは楽しそうにみていました。

また、先生が絵本を読み聞かせたり劇を行ったりすると、子どもたちは食い入るように見ていました。絵本が飛び出したりするので、指さしたりする参加型の読み聞かせとなりました。これらの小道具は講師の手作りのものです。

以上で、実施の内容をお伝えしました。

12月20日の最終日に配布したアンケートにより成果と課題が見えてきましたので、結果をお伝えします。まず、「今回の講座について、楽しかったあるいはよかったプログラムはありますか」について、寄せられた意見を原文のままお伝えします。「大ホールでの運動やリトミック・サーキット・音楽がよかった。」「壇上にあがって実際にグランドピアノの演奏をしたこと・手に触れたよい体験ができた。」「グランドピアノの体験とか家ではできない事をととても素晴らしかったです。手作りやほんわかした愛あふれる所は本当に感謝です。ママにアドバイスをいただいたり、最後のお話もよかったです。ありがとうございました。」「たくさんの友達がいるので、普段味わえない雰囲気を楽しむことができました。ありがとうございました。」「体を動かす事が好きなので、また次回参加したいです。同じ企画をお願いします。」といった好意的な意見がありました。

成果としましては、アンケートから本講座に対する保護者の満足度が高かったことが分かります。また、今回から新しく設定した、ピアノに触れる活動は好評でした。後期の参加組数が増えたことも成果と考えています。回を重ねるごとに、子供たちが進んで片づけをするようになり、成長がみられました。

課題です。「ピアノが聞けて良かった。反面、絵本が高学年向けであるとか本に興味がない。和室で子どもが騒ぐ場面があったので、親が躰けられるように注意して欲しかった。」「メリハリがほしい。」「体を動かすものをもっと取り入

れて欲しい。」「保護者にしかることを伝えるべき。」和室での開催の場合、大ホールよりもスペースが限られているため、子ども達も思いっきり体を動かさなくて、子どもたちどうしが衝突しそうになることもありました。今後への課題であると考えます。

また、講師と保護者だけでなく、保護者同士の意見交換の場を充実させて、交流を深めたいと思います。講師と話したところ、これから幼稚園などに入園してうまくやっていけるかお母さん方も不安をかかえているかも知れないので。そうしたお母さん方に対してよい事業を提供できるようにしたいという意見もありました。来年度も事業を継続する予定です。

さらに、今後、ブレイクタイムや軽食などによって、さらに交流の機会を増やせるかどうかということが課題です。また、絵本が難しいという指摘もありましたので、劇仕立てにしたりして楽しさを伝える手立てが必要であると考えています。子育て支援課等と連携して、専門家の力を受けた事業の拡充も考えています。

最後にまとめとして今後の展望になります。

アンケートの結果からは、「回数がもっとあるとよい」「幼児向けの教室を定期的に開催してほしいです」など好意的な意見が多数を占めました。「毎回とも運動遊び、うたあそび、読み聞かせを行って欲しい。また、毎週でなくとも隔週で良いので長い期間活動して欲しい。」という意見も寄せられました。大半の回答が、今回のような家庭教育事業を支持していることが分ります。また、雪が降ったため保護者とお子様との安全性を考えて中止とした会につきましてその振替があったらよかった、との意見もありました。今後は、カリキュラムのさらなる改善を行いたいと思います。市民カレッジなどの生徒は小学生との交流などで、子どもとふれあうことに充実感を感じていて経験もおありです。彼らにボランティアをお願いすることも視野に入れていきます。

まとめとしまして、子どもへの接し方について意見交換の場をもう少し増やしたいと考えています。具体的には、ティーミーティングや軽食などです。

また、雪で中止になることも予想して、スケジュールに余裕をもって進めたいと考えています。最後に、絵本の面白さをみんなで参加型にすることで伝えていければと考えています。

以上で報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

塚本館長：

弥富公民館長の塚本でございます。よろしくお願ひいたします。

お手元の資料の 5 ページをご覧ください。弥富公民館は家庭教育事業では、①親子遊びのつどい、②家族で遊ぼう、の 2 事業を実施しました。

次に 6 ページと 7 ページをご覧ください。

このジャンルは、「親子遊び、友達との遊びやものづくり、自然との触れ合いを通して、幼児期の創造力や豊かな心を育てる。また、保護者も子育てについて共に学び家庭の教育力向上も図る。」が目標となっています。当地域では人口減少に伴い対象者数も減少している状況であり、昨年度より市内全域を対象に参加者を募集しておりますが、難しい状況です。そのような中で、講師と担当者が協力・工夫して家庭教育講座を実施いたしました。

では、時間の関係もありますので担当の高橋より事例発表をさせていただきます。

高橋主査補：

家庭教育事業「親子遊びのつどい」について事業発表をいたします弥富公民館の高橋です。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、事業の趣旨については、事業評価会資料には、子育てにおける家庭の働き、あり方や子どもの発達に必要な事柄を親子遊びを通して学習すること、また、幼児が少なく、点在する弥富地区において子どもと保護者双方の交流の場とすることと記載してありますが、事業のねらいとして単純化し、子どもの発達を学ぶこと、大人と子ども双方とも友達作りをすることの 2 点といたしました。

対象は、市内在住の 2・3 歳児及び弥富幼稚園在園児兄弟の 2・3 歳児とその保護者です。

日程は、昨年 6 月から今年の 2 月までの 1 2 回に加え、公開講座として「家族で遊ぼう」を 1 回設けており、この時には対象年齢外の家族や、事業参加者以外にも参加を呼び掛けております。

会場は主に弥富公民館ですが、今年度初めての試みとして、年 2 回和田公民館家庭教育事業の子育て教室と合同で事業を実施しました。1 回は弥富公民館で、もう 1 回は和田ふるさと館で行いました。

今年度の参加者は 4 組 8 人、全員弥富地区在住の方でした。弥富地区での対

象者数は18組なので、総数の2割ほどです。

講師は幼児教育研究者であり、今年度佐倉市教育功労者として表彰された先生です。

参加者の募集方法として、弥富地区在住の対象者に参加募集を郵送したほかに、広報さくら、公民館だよりでの募集、今年度は馬渡保育園の園庭解放に来ている保護者をターゲットとして、馬渡保育園にポスター掲示を行いました。事例発表にあたり、合計13回のプログラムの中から、10月30日実施の和田公民館との合同事業「家族で遊ぼう～ミニミニ運動会～」のライドショーと、1月17日実施の「絵本を作ろう」のダイジェストを動画でご覧いただきます。

それでは、まず初めに、公開講座「家族で遊ぼう～ミニミニ運動会～」をご覧ください。

こちらは3分ほどのライドショーになっています。ご覧いただきましたのが、和田公民館との合同事業「家族で遊ぼう～ミニミニ運動会～」のライドショーでした。

ミニミニ運動会では、母親だけでなく、父親や祖母と一緒に来てくれたご家族もいらっしかったです。運動会の雰囲気が出ていましたでしょうか。

続いて、「絵本を作ろう」の講座風景をご覧ください。こちらは4分ほどのダイジェストになっております。最後に、「絵本を作ろう」終了後に参加者からの感想をいただきました。こちらは3分ほどの動画となっておりますので、どうぞご覧ください。最後までご覧いただきありがとうございました。

事業発表のまとめとして、成果と次年度に向けての課題です。参加した方の感想でもありましたが、子どもの発達を学ぶ、大人も子どももお友達を作るという点で成果があったと考えます。

また、次年度に向けての課題として、これも先ほどの感想で「人数が少なかったのがさみしかった」とあり、参加者をもっと増やすことが求められています。

広報活動はもちろんですが、弥富地区でも共働きが増え、保育園に子どもを預ける家庭が多くなりつつあるため、6月から2月まですべて参加を求められると、入園準備の都合などで参加が難しいと思われれます。そのため、より多く参加者を増やすために実施時期や回数を参加しやすいように見直す必要がある

と考えます。

年度の半ばになりますと、プレ保育や入園など、来年度に向けての準備があり、通年での参加は難しいことが考えられますので、より多くの参加を促すためにも、実施時期や回数を見直していくことを今後の課題として、事業発表を終了いたします。長時間のご清聴、誠にありがとうございました。

小暮館長：

こんにちは、和田公民館の小暮です。本日の事業評価は、和田公民館からは青少年教育事業について発表させていただきます。お手元の資料の、左上にジャンル内事業一覧と表示がある資料、9 ページから和田公民館の事業となりますが、大変申し訳ございませんが、配布資料のデータに誤りがございましたので、10 ページの事業評価シート 1 枚を差し替えていただきたいと存じます。

はじめに、当館の青少年教育事業の目標についてですが、今差し替えていただきました評価シートに記載がございますとおり、地域人材を積極的に活用しながら、子どもたちに歴史・文化・スポーツなどに親しむ機会を設けるとともに、人とのふれあいを大切にして、子どもたちの人間性や社会性を育むことを目標としています。

今年度の青少年教育事業といたしましては、和田剣道教室、軽スポーツ大会、夏休みおもしろ体験教室、佐倉っ子塾料理教室、佐倉っ子塾伝統文化体験教室の5事業がございます。いずれも児童の保護者、学校、地区住民会議、はたおり保存会等の団体と連携・協力を得ながら実施しております。

特に、軽スポーツ大会につきましては、子どもから高齢者までスポーツを通じて交流を深めようとするものでございまして、和田地区青少年育成住民会議、地区社会福祉協議会との共催で実施し、スポーツ推進員、区長さん達にもご協力いただいて、地域で子どもを育てる健全育成の場になっております。

今年度の青少年育成事業にかかるジャンルの評価といたしましては、企画はA、実施がB、改善についてはBとさせていただきます。実施がB評価である理由としましては、学社連携に視点をおいて実施しましたおもしろ体験教室につきまして、教職員との打ち合わせ等が不十分であった側面があること、また、伝統文化体験教室について、もっと地域の豊かな自然や文化を生かした事業展開をしていかなければならないという課題が存在しているためです。なお、各事業の概要につきましては、資料の11ページ、12ページに記載がござい

ます。

総合評価といたしましてはA評価としておりまして、保護者、学校、地域団体との連携をしっかりと取りながら、事業運営をすることができましたこと、また和田剣道教室の剣士による野試合を地域のお祭りで披露することができたこと、伝統文化体験教室では、長命大学手芸教室の受講生と児童の交流を深める機会を持たせた点等が評価の理由でございます。

なお、少子、過疎化が進んでいる地域の実情を考えますと、今和田の子どもたちが持っている元気の良さ、純朴さはいつまでも失いたくない。そのためには公民館はこれからどのような事業を実施し、展開していくのか、児童数が減少しても子どもたちにどのように元気を与えていくのかを真剣に考えていかななくてはなりません。これが大きな課題です。

その中の一つの軸となるのが、学社連携であると私は考えております。学校と公民館が相互協力し、補完し合って、子どもたちを育てていく。もちろん、保護者をはじめ地域住民の協力なくしては実現できませんが、公民館が学校と地域住民と一緒にあって青少年の健全育成に取り組んでいく姿勢は今後とも続けて参りたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、私の方から和田公民館の事業評価について説明させていただきました。これより、当館の内田から「夏休みおもしろ体験教室」の事例について発表をさせていただきます。

発表後、評価シートと併せまして、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。どうぞよろしく申し上げます。

内田主任主事：

和田公民館の内田と申します。

青少年教育事業の中から「夏休みおもしろ体験教室」の発表をさせていただきます。よろしくお願いたします。

まずはじめに、当館の青少年教育事業と関わりが深い、和田地区の小学校、和田小学校についてお話をさせていただきます。

和田小学校は、明治41年4月和田尋常(じんじょう)小学校として誕生し、108年という歴史ある学校です

児童数が一番多かった時期は、昭和33年で472人の児童がいたそうです。

現在はといいますと、全校児童数71人。昨年度は80人ですので、9人減つ

ております。

今年3月に卒業する児童は、14人。4月に入学する児童は、4人となりますので、29年度の、全校児童数は、61人の見込みとなっております。和田地区の少子化が進んでいることが お分かりいただけるかと思えます。

それでは、本題であります、青少年教育事業の一環といたしまして、毎年夏休みにおもしろ体験教室を実施しております。

趣旨と概要についてですが、まず初めに趣旨としまして、保護者や地域の人たちの協力を得ながら、子どもたちに共同生活体験の場を提供し、子どもの自主性・協調性・社会性を高めてもらうことを目的といたしました。対象は、和田地区の小学3年生から6年生。今年度参加者数は、14人。実施時期は、7月29日に実施いたしました。

平成28年度の夏休みおもしろ体験教室の、基本的な考えといたしまして、学校と公民館の学社連携に重点をおき、子どもたちの興味、関心、意欲の向上を目指すことを目的としました。

学社連携は、文部科学省が推進しておりますが、学校教育と社会教育がそれぞれ独自の教育機能を発揮し、お互いに足りない部分を補い、教育効果を高めていかななくてはなりません。

平成28年度の、おもしろ体験教室の1つ目としまして、一輪車教室を実施いたしました。毎年行われる運動会での一輪車競技種目へ積極的な参加を促すことを目標に専門分野の方から基礎や基本を学ぶ機会としました。

2つ目は、食事づくりです。集団活動の中で、高学年の子どもたちが、低学年の子どもたちの面倒を見ることで、思いやりの気持ちや協力し合うことの大切さを感じてもらう。また、作ることの楽しさや大変さを学ぶ機会としました。

3つ目は、和太鼓です。今年度、和田小学校に着任した先生が 日本の伝統芸能である、和楽器の魅力を伝えたいという話を聞き、このおもしろ体験に専門分野の方を呼び基礎や基本を学ぶ機会としました。

こちらは、午前实施了いたしました、一輪車教室の様子です。講師は、日本一輪車協会認定インストラクターの小国和平氏です。昭和17年生まれの75歳の方です。毎年、全日本一輪車マラソン大会に参加し、完走している方です。当日は、小学校の体育館を使い、練習をしました。まず、講師の方が、正しい乗り方を子どもたちに説明して下さいました。

そして、初級の子は、講師手作りのポールを使い、両手でポールを持ち、正

しい姿勢でバランスをとる練習をしました。こちらは、中級の子どもたちが、板の上をバランスを取りながら、わたっているところです。その奥では、三角コーンをジグザグに走る練習をしています。こちらは練習を重ねたうえで、中級の子どもたちと上手に走ることが出来るようになりました。

約1時間30分という短い時間でも 基本の姿勢・乗り方を教わるだけで、ほとんどの子どもたちが上達することが出来ました。

続きまして、お昼の食事作りです。

講師は、和田地区青少年育成住民会議 行事特別顧問の六崎美知代氏と高梨直子氏の2名の方で、さまざまな公民館事業において支援いただいている方です。

講師は、始めに料理の手順の話をしてくださいました。

初めて包丁を持つ子もいれば、家庭でよくお手伝いをし包丁を上手に使える子、さまざまです。上級生が心配そうに優しく面倒を見ていた様子がとてもほえましかったです。この日のメニューは、ご飯・ポテトロール巻・キャベツとソーセージのカレーマヨあえ・黒糖バナナ寒天・きな粉クッキーの5つのメニューでした。講師の方は、1年生でも調理ができるもの、カロリーも計算し、そして何より子どもたちが喜んでくれるメニューを考えてきてくださいました。子どもたちは、講師・友達と楽しそうに会話をしながら食事をしていました。

続きまして、午後は、和太鼓に挑戦です。講師は、近隣の根郷地区にお住まいの和太鼓を指導している白鳥暢幸氏です。和太鼓にした理由としまして、今年度小学校に着任した先生が、和太鼓を授業に取り入れているので、公民館でも、専門分野の方から指導いただく機会を設けることで、更に和太鼓の魅力・楽しさを感じてもらえればと実施いたしました。なお、小学校の和太鼓は、先生方の熱い思いから、地域の方が学校に寄付して下さったそうです。

今年度、和田公民館では、「和田小学校の誕生とその歩み」の特別展を開催いたしました。その際、オープニングセレモニーで、子どもたちは、合唱の発表、セレモニー後に行われた教育ミニ集会では、当日までに練習を重ね、和太鼓演奏が初めての発表の場となりました。こちらの写真がその時の様子です。講師は、大きな和太鼓を3台持ち込みなどの用意してくださいました。始めにたたき方の基本の説明を話してくださいました。小さな体で、大きな和太鼓をたたきたい様子から、緊張とわくわくした様子がとても伝わってきました。練習を重ね、徐々に和太鼓の力強い音が体育館に響いてきました。最後に講師の娘

さんとお孫さんが力強い演奏を子どもたちに聞かせて下さいました。

事業終了後、子どもたちにアンケートを書いてもらいました。「一輪車ができるようになった」「料理を作るのが楽しかった」「和太鼓をもっとうまくなりたい」「すべて楽しかった」「6年生最後のおもしろ体験教室に参加できて楽しむことができました」と感想を書いてくれました。

そして、事業活動の成果としまして、異年齢交流で、協力し助け合い、かかわり合う中で、相手を思いやりながら活動をしていた様子や毎年参加している児童の、1年1年成長している様子が見受けられました。

また、ふだん自己流でやっていることを、専門分野の方々から、直接指導いただくことにより、基礎や基本の大切さを学ぶことが出来たと思います。

そして、地域住民の方が講師となることで、子どもたちと地域の人とのつながりの大切さを感じられ、地域で子どもたちを育成する場の提供ができ、その中で、交流を深め合うことが出来たと思います。地域人材の活用においては、今回は、近隣地区の方の協力をいただきることができたことは成果だと思えます。また、毎年体験教室に参加している6年生児童にとって、最後の楽しい思い出作りになったようでした。

今後の課題です。「保護者とともに地域全体で子どもたちの健全育成に取り組むための工夫が必要であること」「単なる遊びではなく子どもたちに役立ち、なおかつ普段体験のできないもの、自然体験活動などプログラムに取り入れていく。」

この夏休みおもしろ体験教室は、和田小学校児童対象で行っています。少ない児童数の中で、毎年20名近くの参加があるのですが、今年度の参加者数が少なかった理由としまして「一輪車」という特殊な体験事業を取り入れたことで、苦手な子どもたちの参加が少なかったことが原因の1つと考えます。

しかし、苦手だからこそ、伸ばしてあげたいという思いもあり、誰もが参加してみたい、カリキュラムの内容の検討募集での参加の呼びかけの工夫が大事であると感じました

現在の学校と公民館との連携に関しては、歴史民俗資料室を活用した授業の支援として、はたおり体験、PTA 組織で行っているものではありませんが、5年生の授業のミニ玄関飾り作りで、公民館職員が参画しています。

また、和田小学校と共催で、家庭教育講座を実施したり、和田地域塾では、受講生が小学生と一緒にあって、稲刈り体験をするカリキュラムを取り入れま

した。

そして、今年度開催いたしました「特別展」和田小学校の誕生とその歩みでは、和田小学校と密接に連携して事業を実施し、校長先生を始め学校よりたくさんの方の資料等の提供をいただきました。教育ミニ集会においても、学校からの依頼を受けて館長が講師となり、和田の歴史を分かり易く話していました。

余談となりますが、昨年度より私も学校運営委員会の委員となり、学校に関わる行事に参加させていただいている中で、先生方と話す機会や子どもたちの様子を見ることが増えました。

今年度事業を振り返って、学校や担当教員と深く細かな打ち合わせが出来なかったことは大きな反省点です。学校での活動を取り入れるだけでは、連携とは言えず、今後の展望として学校と公民館との連携の強化が重要であると思います。

学校で今、何を問題としているのか、何を公民館で協力でき、補っていけるのか計画を立てて来年度に向けて進めていきたいと思っています。

以上です。ありがとうございました。

委員長：

ありがとうございました。ただ今、中央公民館・弥富公民館・和田公民館から事業内容についての説明がありました。何か質問がございましたらお願いします。

委員：

和田小学校の児童数の推移をみますと減少傾向にありますが、弥富と同様に小規模校の動きをとられているのでしょうか。

小暮館長：

和田に関しましては、そのような動きはないと伺っております。ただし、年々児童数が減少しておりまして来年度の4月には約10名となっておりますので、今後の話し合いが必要であると考えております。今のところは小規模校を進めているとのお話は伺っておりません。

委員：

新入生が数名となりますとかなり状況は厳しいですが、ただちに特認校にはならないということですね。

小暮館長：

専門外ですので詳しくはご説明できませんが、小規模特認校の話は出ていないということはお伝えできるかと思います。

委員：

中央公民館の事業は前期5回・後期5回となっておりますが、前期は6・7月、後期は11・12月という解釈でよろしいでしょうか。また、後期は雪で中止になったとのことですから、後期は4回という解釈でよろしいでしょうか。

江波戸館長：

前期につきましては、6月16日から7月の14日までの間で5回実施をしました。後期につきましては、11月24日から12月20日までの全5回の予定でしたが雪のため1回中止になりました。

委員：

了解しました。

委員長：

質問は他にございますでしょうか。ないようですので、この後10分間の休憩をはさんで再開したいと思います。

<休憩>

委員長：

定刻となりましたので、公民館運営審議会を再開します。

先ほどと同様に、根郷公民館、志津公民館、臼井公民館の順で、3館に説明をしてもらい、その後、質疑応答を行いたいと思います。

それでは、根郷公民館から説明をお願いします。

松田主査補：

根郷公民館の松田と申します。本日は館長が所用のため欠席となっておりますので、私の方から館長に代わりまして、平成28年度の事業評価についてご説明させていただきます。

資料14ページの、評価シートをご覧ください。ジャンルは成人教育でございます。ジャンルの目標ですが、「生涯学習の場として、地域の人材を活用し、郷土の歴史・文化・自然をテーマとして、生きがいに役立つ学習機会を提供することにより、主体的な地域社会への参画を推進する。」を目標として設定しました。

次に、個別事業評価一覧でございます。各事業の詳細につきましては、15ページのジャンル内事業成果等一覧も併せてご覧頂ければと思いますが、根郷公民館では、今年度、15の成人教育事業を行っております。

まず、「根郷寿大学」は60歳以上の方を対象に、生きがいを持って健康で充実した生活が送れるよう、佐倉の歴史や社会問題など、様々な講座を通じて交流を図ることを目的としている市民大学でございます。また、受講者以外の市民の方も受講できるように、市民公開講座も開催しております。

「シニア向け健康づくり講座」は、日常生活の中で簡単にできる運動を学ぶ講座ですが、今年度は高齢者向けに実施しております。

「パソコン広場」は、パソコンボランティアが講師となり、初心者に必要な操作方法等を教える講座です。

「シニアのためのタブレット・スマートフォン講座」は、携帯電話会社に講師を依頼し、高齢者を対象として基本操作を学ぶ講座を実施しております。

珈琲学入門講座 珈琲おいしさの方程式は、珈琲の基礎知識からおいしいいれ方等を学ぶ講座です。

ハンギングバスケット講座は、花と緑があふれるまちづくりを目指すためのガーデニング講座を行っております。

佐倉学講座として、江戸時代以前の中世の古い街道について、現在の残る地名や城跡(しろあと)などから、そのルートについて学ぶ講座や佐倉市から出土した縄文・弥生時代の土器を観察しながら、土器作りを行い、併せて復元土器を使用して古代食を調理し、味わうことにより、原始・古代の生活を追体験する講座、佐倉市で採取した椿の種を利用して椿油を作る講座、寺崎地区を散策し、密蔵院薬師堂の大祭を見学する講座など、根郷地区を中心とした佐倉市の歴史

や自然、伝統文化等を学ぶ講座を実施しております。

成人教育のジャンルの成果ですが、「根郷寿大学」は、講座の講師を外部に依頼するだけでなく、「根郷寿大学」の受講生が講師を行い、受講生同士で教えあう講座を設けたり、各班で行っている自主活動を講座日以外でも熱心に行っております。さらに、受講生が作詞作曲して校歌を作り、講座前に校歌斉唱として全員で歌うなど、活気あふれる講座となっております。その他の事業につきましても、地域の特色を活かしたさまざまな事業を展開しており、成人教育としての成果をあげることができていると判断しております。

課題としましては、根郷寿大学の受講生の意見・要望等をできるだけ集約しながら、学習プログラムを策定していく必要があると考えております。また、佐倉学講座は、今後も地域の特色を活かし、マンネリ化にならない事業を展開できるよう検討する必要があると考えます。

多少の課題はありますが、総合評価ではA、適切で成果が得られている、と評価いたしました。

それでは、ジャンル内の15の事業の内、「佐倉学講座 楽しく見て学ぶ鉄道講座」についての事例発表をいたします。この講座は、JR 佐倉駅が根郷地区にあることから、佐倉駅や鉄道の歴史、市民との関わりについて学ぶために平成23年度から始め、今年で6年目を迎えております。それでは発表を始めます。

菅原主査補：

楽しく見て学ぶ、鉄道講座についてご説明いたします。

「この講座の開設趣旨と課題です。千葉県内に0番線のある駅は、佐原駅・成東駅・四街道駅ですが、千葉方面・銚子方面 両方向に列車が発車できる駅は、どこでしょう。」という問題です。「なぜ0番線と呼ぶか」ですが、通常、ホーム増設時に乗降客の混乱を避けるため、新しいホームを0番線と呼び、片方向が行き止まりになっていることが多いようです。正解は10分後、発表の最後でお見せしたいと思います。

本講座の開設趣旨は、次の4つです。

- ①明治期に産声を上げた、日本の鉄道の歴史を振り返る。
- ②千葉県の鉄道の発祥の地「佐倉」が、どのように鉄道と関わったかを知る。
- ③駅前や街並みが、どのように変遷していったか、鉄道と市民との関わりについて学び、地域の理解をさらに深める。

④さらに、佐倉市民と関わりのある千葉県内の鉄道についても学ぶ機会とします。

平成 23 年から始め、今年で 6 年目となるこの講座を簡単に振り返ります。

今年で、千葉県内の鉄道会社を一巡したことになります。今までの記録は、掲示してありますので、のちほどご覧ください。

当初この講座は、社会教育課の主催事業として、開講いたしました。初年度は、跨座式の山万モノレールと京成電鉄を見学しました。モノレールのポイント切り替えに皆さん興味津々でした。

次年度から佐倉駅が根郷地区にあることから、根郷公民館の主催事業となり、懸垂式の千葉都市モノレールと、社長が佐倉市民のいすみ鉄道の見学を行いました。ディーゼルカーを貸し切り、車内で駅弁の昼食と社長の講義がありました。

その他、銚子電鉄や小湊鐵道を見学し、平成 26 年度は、総武鉄道市川～佐倉間が開業して 120 年になるのを記念し、市立美術館で関連資料の展示を行い 431 名の来場がありました。お手元の冊子は、その時に受付で無料配布したものです。クリアファイルは、今年見学した流鉄から頂いたものです。併せてお持ち帰りください。

今まで、各社を見学し、数々のおもてなしを受けてきました。一例をあげますと、銚子電鉄では、「駅から徒歩で移動し、車庫に留置している車内で昼食」という打合せでしたが、突然、ホームに回送列車が入線してきました。「乗って下さい、車庫までお連れします」と列車を仕立てて頂き、引き込み線を使用して車庫まで移動しました。同様に小湊鐵道でも、通常 1 両編成のところ、もう 1 両無料で増結していただきました。銚子電鉄では、さらにこの日だけの記念入場券を作製していただき、良い記念となりました。その他、小湊鐵道見学時のお弁当の包み紙に、根郷公民館と印字してあったりもしました。

それでは、今年度の事業の説明をいたします。期間は、12 月 9 日金曜日と、15 日木曜日に成人の方 30 名を対象としました。

周知方法は、公民館だより・こうほう佐倉・チラシやポスターの掲示及びホームページで募集し、23 名の参加がありました。

学習内容は、鉄道史研究家の白土貞夫氏を講師に、講義と見学を行っています。

詳細な内容は、1 日目に「総武本線駅のはなし」と題し、総武本線沿線の駅を

テーマに講師が所蔵する写真を解説する形で、千葉県最古の木造駅舎の横芝駅から、最近一期工事が終了した千葉駅、東京駅まで、駅誕生秘話などのお話をいただきました。

佐倉駅は、駅舎の位置は変わらないが、現在の駅舎は、三代目で、二代目時代、昭和16年に上映された日本映画「指導物語」や、松本清張の推理小説「点と線」のロケに使われたこと。現在の表町が、かつて「停車場」と呼ばれていた事は、当時の国土地理院発行の地形図にも記載され、証明されているなどお話をいただきました。講義が四街道駅まで進むと、千葉県内に0番線のある駅は、佐原駅・成東駅・四街道駅で、千葉方面・銚子方面両方向に列車が発車できる駅は、四街道駅だけという解説もいただきました。会場の脇には、佐倉南図書館の協力を得て、講師の著書を陳列し、休憩等に手に取って読めるようにしました。受講生の中には、講座後に本を借りていく人や、新品を持参し、講師にサインをもらう人もいました。

2回目は、鉄道会社の歴史や、安全運行への取り組みなどについて学ぶため、去年3月に開業100周年を迎えた流鉄を見学しました。行きのバスの車内では、講師から、流鉄や関連する常磐線・東武野田線の概要などの解説をいただきました。

この写真は、開業100周年のヘッドマークを掲出した車両と、流山駅に移動中の車内の様子です。席はガラガラなのに、一番前だけが、なぜか混んでいますね。

流山駅に到着後、社員の方から流山についての話がありました。その動画がありますので、ご覧ください。

この写真は、車庫に留置している車両へ移動している様子です。

温かい車内に入って、講義が始まりました。警報器と遮断機の無い踏切での「踏切事故」を教訓に、警報器と遮断機付きの踏切に取り換える事業を進めていること、改軌や乗り入れする鉄道会社の変更等で、何度も会社名が変わったことなどをお話しいただきました。

平成17年8月に流鉄にとって、最も衝撃的なことが起こりました。それは、首都圏新都市鉄道、つくばエクスプレスの開業です。これにより、年間の乗降客数が約16%減少しました。

しかし、始発電車の繰り上げ・終電車の繰り下げと、運行回数の維持により、利用客の利便性を確保しました。

また、100周年のイベントでは、地域の方と一緒に企画し、作りあげたことなど、地域に根差した地方鉄道の現状を知ることができました。

午後からは、近藤勇陣屋跡と流山市立博物館の見学です。博物館の学芸員の方から、流山の交通「水運から鉄道」へと発展する過程について、詳しく説明いただきました。

アンケート結果です。「とても良い講座なので、年2回開催してほしい。」「千葉県の鉄道の歴史がくわしく理解できた」等の意見があり、満足度・目的達成度・学習意欲度ともに高い評価となりました。

この講座で、得られた成果は、「日本の鉄道の歴史を学ぶことができた。」「佐倉は、昔から交通の要衝で、機関車の付け替えなどで長時間停車することから、駅弁やアイスクリームなどを製造する企業が多くあった」こと。また、「駅前一帯を「停車場」と呼び、旅館が数件あり、佐倉駅と鉄道との関わりや、街並みの変遷と、鉄道と市民との関わりを学ぶことができた。」「この6年で、千葉県内のモノレール・ディゼルカー・電車の走る仕組みや地方鉄道の取組みについて、学ぶことができた。」です。

この講座の課題は、普通の歴史講座と違い、専門的な一面もあることから、集客に苦労しています。

通常の募集では、なかなか集まらないので、サークル利用者や、市外の鉄道好きの方に声をかけている状況ですが、なかなか定員に達しません。募集方法をさらに検討してまいります。見学地につきましては、講師と相談し、有意義な講座となるよう努めていきたいと思っております。

最後にクイズの答えは四街道駅です。ご覧のとおり、18時14分発の千葉行きと、16時34分発の成田空港行きの欄に「0番線から発車」と記載があります。お近くですので、何かのついでの時に、時刻表や配線など、ご自分で、見て・乗って体験してみてください。きっとはまると思っております。そうしたら、来年度は、ぜひ講座にご参加ください。お待ちしております。

以上で、発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

井原館長：

志津公民館長の井原と申します。よろしくお願ひいたします。志津公民館からは団体育成事業について、この後秋山より説明させていただきます。公民館事業評価資料の21ページ以降をご覧ください。目標は、「社会教育団体が自主

的・計画的に活動できるよう、資料の提供や連絡調整等の援助を公民館が行うことにより地域づくりに寄与すること」でございます。

志津公民館では団体育成事業として、8事業を実施しております。まず1番目の志津公民館祭ですが、こちらにつきましては秋山の方からのちほど説明させていただきますが、当日は佐倉の秋祭りに重なってしまったものの5,000人をこえる来館者で賑いました。また今回から地元の食材をいかすようにしました。

2番目のサークル研修会は、公民館を利用するグループ・団体に対して公民館で活動する意義や施設の予約方法・利用内容等に関する説明を行うとともに、グループ間の交流を図っております。また、自分たちが学ぶだけでなく日頃の学習成果を発揮できるような、かつ、世代間交流に活躍してほしいという呼びかけを行い各種事業においてご協力をいただいております。個別事業の評価としましては、必要性・優先性からAとさせていただきます。

3番目の調理室懇談会です。調理室を利用する団体に利用方法の説明を行うとともに、職員と一緒に調理室の清掃や点検を行うことで、協力や理解が得られ、意義の向上と適正管理がされると思います。こちらも必要性・優先性からAとさせていただきます。

4番目の「志子連」志津地区は平成10年度から団体の減少が続き、事業の実施がなかなか難しい状況でしたが、佐倉市子ども会安全の手続き等につきまして、情報提供を中心に子ども会育成者の支援を行ってまゝす。なお、子ども会の育成につきましては、児童青少年課の主管となっておりますが、公民館からもサポートを行うこととし、評価として「B」とさせていただきます。

続きまして、5つめのジュニアリーダーズクラブです。こちらはクラブと連携協力してクリスマス会等を実施するとともに、志津地区の子ども会への青少年教育を行っております。

6つめの志津地区社会教育団体支援事業です。志津地区住民育成会議も、主管課が児童青少年課となっておりますが、公民館としては連携協力をはかっておりまして、市長をはじめとして著名な講師をお招きして研鑽を積んでおります。評価としましては、Aをつけさせていただきます。

7番めの相談カウンセリング等の支援事業ですが、カウンセリングサークルが事業を展開する中で連携協力して支援を行っておりましたが、サークル側から昨年に解散届けが提出されましたので今年度をもって同サークルの事業は終

了となります。個別事業といたしましては、これまでの総合評価として A とさせていただきます。

公民館園芸ボランティアサークルですが、自主的な活動をされていますし事務的なあるいは場所の提供も含めたサポートをしております。その他、植物が良く育っていいという評価もあり、援助してきました。以上の結果であります。市内の各公民館の中でも公民館祭は当館唯一と言っても過言でない事業です。他市の方からも佐倉の公民館祭はグレードが違うというお褒めの言葉もいただいております。今回は市長・副市長からも全サークルにお声かけさせていただきました。以上のことを踏まえまして、秋山からご説明させていただきますので、よろしくをお願いします。

秋山主査補：

お世話になります。志津公民館の秋山と申します。根郷公民館に続きまして、団体育成から、志津公民館にて行われました第43回志津公民館祭について説明させていただきます。

まずスクリーンをご覧ください。こちらは最終日に行われた餅つきの画像です。子ども達の体験も含めて、毎年人気のコーナーです。

内容に入ります。まずは第43回に至るまでの公民館祭と、切っても切り離せない志津公民館の歴史について説明いたします。

志津公民館は市制施行前の志津村の時代に志津村公民館として始まり、翌年の市制施行により佐倉市公民館志津分館となりました。昭和48年、独立館である志津公民館として建設を開始、同年開館いたしました。その後、公民館から提案したのかサークルから声があがったのかは不明ですが、翌年の市制20周年と、新公民館の1周年にあたる時期にあわせて志津公民館祭を行うこととなり、昭和49年10月に第1回の志津公民館祭が開催されました。

こちらが第1回志津公民館祭の様子です。なかなか歴史を感じさせる写真です。

その後、公民館の利用団体数の増加に合わせて、公民館祭も参加サークル数の増大、それに応じた会場の増加と、規模が大きくなっていきました。

なお、昭和63年については、当時昭和天皇のご体調がすぐれないことから、数々のイベントが自粛したことにより、準備は進めていたものの公民館祭自体も自粛したものです。しかし、翌年再開し、また回数を重ね、30回、40回、

平成27年には旧公民館で最後の志津公民館祭を開催、そして今年度新公民館、志津市民プラザで最初の公民館祭を開催するに至りました。

公民館祭の趣旨です。地域のグループ・団体の相互交流、親睦、それぞれの学習発表の成果、地域住民との交流を通して、多くの地域の人々を学習活動へ誘うこと。これが志津公民館祭の基本となっており、この趣旨に沿った形でこれまでも開催されてきました。これからも基本に忠実に開催されていくものと思います。

こちらは参加団体数の経緯です。平成一桁頃の参加団体数が多いのですが、発表団体数等は当時も現在もほぼ変わらないので、協力団体が多かったと推測されます。

志津公民館祭実行委員会の組織図です。公民館祭は実行委員会形式で開催しております。参加する各団体から一人ずつ実行委員が出る形式です。

実行委員会の構成です。実行委員の中からグループごとの代表を互選にて決めます。さらにその中から必要な役員を再度互選にて決めていきます。

なお、今年度から事務局長の提案により、事務局次長の人数を増やして対応することにしました。これにより、今年度の新しい会場での開催にあたり多人数で知恵をしぼり、最終的な成功につながったと考えております。

志津公民館祭では、サークルの発表する形式により、グループ分けをしております。なお、後で画像及び映像にて様子をご覧ください。

では表をご覧ください。第1グループと第2グループがサークルの活動内容の舞台発表や実践、第3グループが作成したもの等の展示、第4グループが駐車場を使つての模擬店、第5グループが裏方として協力してくれるグループ、そして子ども体験コーナーとして、子ども達が竹とんぼなどの昔の遊び、辻切りなどの伝統工芸等、サークルが考えたコーナーを行うグループに分かれています。

つぎに、公民館祭の準備段階の様子をご覧ください。

これが中心となる実行委員会の役員会の様子です。そして役員会で決まった内容をグループの代表に周知するグループ代表委員会、そして最終的に実行委員の方々へ説明し、実際の内容を決めていく実行委員会です。これを3回繰り返して、具体的に開催する内容を固めていきます。

今回の公民館祭は、新しい施設での初の開催にあたるため、決めなくてはならないことが多々ありました。かつ、志津市民プラザは複合施設であることか

ら、他の施設にも働きかけて、この公民館祭を全館で盛り上げようと進めていきました。他にも、役員からの提案により、のぼり旗を購入・設置するなど、少しでもたくさんの市民の方に志津公民館を知っていただくべく工夫を重ねていきました。

そろそろ開催日が近づいてきました。それぞれ会場の準備、リハーサル、展示設営、模擬店を出すものの仕込みを行っているところです。

続きまして、テント設営、懸垂幕の設置、のぼり旗の設置、流し台の設置です。

いよいよ公民館祭開始となりました。では最初にサークルの舞台発表です。第1グループです。曲はふるさとです。ではどうぞ。いかがでしたでしょうか。サークルのみなさんの練習の成果を感じ取っていただけましたでしょうか。

これからはグループごとに、順番の様子をご覧いただきたいと思います。まずは第1グループです。毎日、バリエーションにとんだ発表がなされました。見た側も発表した側も楽しんでいただいたと思います。

続きまして第2グループです。西志津ふれあいセンターの舞台を使用しています。ステージを使用しての発表は、また一層違った雰囲気です。

公民館に戻りまして、こちらは展示の部、第3グループです。配置にも工夫をこらした力作ぞろいでした。

模擬店の様子です。公民館祭の中で、一番にぎわっていたところです。ここを目当てに来てくれた人も多かったようです。

子ども体験コーナーです。なお、右下は本棚を作成しているところです。その他の風景です。なお、今回初めての志津市民プラザでの開催ということで、開会式に蕨市長からのお言葉をいただき、公民館祭もしっかり見学していかれました。

以上、開催中の公民館祭をひととおりご覧いただきました。ここからは、公民館祭を開催してどのような結果だったのか、及びどのような効果が見られたのかについてお話しいたします。

まず、公民館祭に来場した方の数ですが、前年度のほぼ倍の方にお越しいただきました。ただし、志津市民プラザは複合施設であり、他の施設、例えば図書館に来た方もカウントしているわけですが、展示等をしていけばおそらくご覧いただいているだろうということから、人数としてカウントしております。他の件で来館しても、志津公民館を紹介できるというのはこれまでにないメリ

ットと思われます。参加した団体数は逆に微減したわけですが、今回の開催した様子を見てくれた未参加のサークルの人が、来年度はうちも参加してみよう、という気になってくださればいいかな、と考えております。

続いて、公民館祭を振り返りつつ、来年度に向けた取り組み等です。公民館祭の準備は限られた時間の中で、おおむね良くできたものと思います。開催中に、特に大きなトラブルも無く、無事終えられたことも公民館としてほっとしています。10月以降、サークルについて公民館への問い合わせ件数も体感的にですが増加したことから、趣旨の一つである、多くの人を学習活動へいざなうこともできたのかな、と思います。なお、来場者からアンケートを取っていないので、来年度はアンケートを取ることを検討したいと思います。

そして、公民館祭については、もう第44回に向けて動き出しています。

今月15日に公民館祭実行委員会を開催し、今年度の反省事項の洗い出しや来年に向けての方向性の打ち出し、実行委員会の開催方法に向けて、熱い議論が交わされました。来年はさらによりよい公民館祭を実施し、公民館のサークル同士の交流、地域住民同士の交流の場として、これからもずっと開催されることを願います。

以上、発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

柳田館長：

臼井公民館の柳田と申します。臼井公民館団体育成事業について、27ページ以降をお開きください。来年度の目標です。市民のまちづくりや活躍が期待される中で、公民館の人材育成や団体育成を社会教育の観点から充実させていくにあたり、団体の自主性を尊重しつつ、団体の活動支援を行っていくというものです。内容につきましては前年を踏襲するものの、今後改善がはからればというものもございます。参加者のアンケートを見つつ検討を重ねていくと考えております。他の団体や学校団体との貴重な交流の体験ができたものと思っております。懸念されるのは、子ども会の数の減少です。5年前の平成23年には672人であり会数は13でした。平成28年は415人と会数は7まで減少しています。ここ1、2年ということではございませんが、数十年後にはかなり減少していくことが考えられますので、何か埋め合わせられるような方策を取りたいと検討しています。評価はBをつけさせていただきました。具体的な説明は宮野の方からさせていただきます。

宮野主査補：

臼井公民館の宮野と申します。

本日の事業報告会ですが、臼井公民館団体育成「臼井地区子ども会育成会連絡協議会」について発表いたします。

まず、臼井公民館のある、臼井地区と千代田地区についての概要です。

人口はご覧のとおりです。臼井・千代田地区内には小学校が全部で6校ございます。臼井小・印南小・間野台小・王子台小は臼井地区。千代田小・染井野小は千代田地区の小学校です。表示されている人数が全校の児童数です。

今回の発表のテーマとなっている、「臼井地区子ども会育成会連絡協議会」についての概要です。まず、目的としましては「臼井地区内の子ども会や、子ども会にかかわる諸団体との連絡、調整を図る。そして各子ども会の発展を目ざすこと」です。

会員は、臼井・千代田地区内の小学校の子ども会、先ほどの6つの小学校を対象としています。今年度の会員数は、児童320名・保護者95名が所属しています。

子ども会の組織についてわかりやすくしたものが次の図です。

横長のだ円で表したのが、単位子ども会です。自治会、町内会にある子ども会です。それら子ども会のなかで、連絡協議会として組織化されているものが「臼井地区子ども会育成会連絡協議会」となります。通称は臼井地区子連と表現しております。この臼井地区子連への加入は強制ではなく任意となります。

臼井公民館では、この臼井地区子連について支援・団体育成をしていくということになります。

次表に行きまして、臼井地区子連のような子ども会連絡協議会が佐倉市内の他の地区にもございます。

たとえば佐倉地区には佐倉地区子連、南部地区子連は主に根郷地区の連絡協議会です。この、各地区の地区子連の集まりが『佐倉市子ども会育成連盟』となりまして、通称は「市子連」となります。以上が子ども会関連の組織についてのご説明です。

次に、臼井地区子連の活動について、臼井地区子連の年間活動計画が表のとおりになります。網掛けの行と白い行がございますが、網掛け部分は臼井地区子連の事業、白い行は市子連主催の事業です。

この事業一覧の中で、太線で囲んだ部分についてこれから紹介いたします。

臼井ふるさとにぎわい祭り。主催は、臼井の商店会の連合会で組織される、にぎわい祭りの実行委員会です。毎年8月に開催されます。目的は、若者と地域住民や商業者との親睦と交流を図ることです。

内容は、路上やステージ上の踊り、サマーコンサート、チャリティー募金活動、模擬店とあります。

この模擬店に臼井地区子連として参加します。当日の風景の画像があります。ご覧ください。ご覧のとおり、くじ引きを行います。会場設営の画像です。箱の中にあるくじを引いて、当たりはマックカード。はずれますとお菓子のつかみ取りとなります。最初は保護者のスタッフが多かったのですが、次第に子どもたちがスタッフとして積極的に行うようになりました。

続いて、佐倉市子ども会中央交流フェスティバルのご紹介です。主催は、佐倉市子ども会育成連盟、つまり市子連となります。会場は佐倉市民体育館です。参加者は今年度もおよそ400人です。内容については、「参加団体によるブース運営」とありますが、次の表をご覧くださいとイメージしやすいと思います。

各地区子連を含めた子ども会関連団体がそれぞれゲームコーナーを運営します。表をご覧ください、佐倉地区子連は輪投げ、ヤングプラザは巨大だるま落としといった感じです。臼井地区子連は、まつぼっくりにいろいろ飾り付けるまつぼっくりリースを実施しました。

役員会の風景です。臼井地区子連では、どういうゲームコーナーを実施しようか、と役員が自由に意見を出し合っています。今回の中央交流フェスティバルのテーマとして「秋まつり」という設定がありまして、実は意見のなかには射的や、折り紙の魚釣りや、だるま落としなどといった意見も出ましたが、最終的に秋の物「まつぼっくり」を使った「まつぼっくりリース」に決定しました。

準備風景になります。「ガーデンアーチ飾り付け」の写真です。

「見本作り」写真について見本があったほうがいい、ということでまつぼっくりにビーズやモールといった様々な飾りをつけていきます。

オープニングは、みこしの風景になります。臼井地区子連の会長によるブース説明風景です。

次は、実際に子どもが飾りつけを行っている風景です。基本的に順調に進みましたが、子どもたちはボンドの量の加減を知らないので、ベタベタつけていき、ボンドが足りなくなると近くのコンビニに買い出しに行くことになりました。

た。

「卒業バスハイク」の写真につきまして、6年生を対象にした卒業記念のバスハイクです。卒業後の春休みに行きます。

これも行先について役員で話し合いをして決めました。また、バスハイクにするかどうかについても話し合っております。

役員で協議した結果、行先は東京お台場にある「東京ジョイポリス」というレジャー施設に決まりました。このお台場東京ジョイポリスとなった決め手、メリットとして屋内施設のため雨の心配がない。距離が比較的に近い。6年生になったらジョイポリスに行ける・・・と、うわさが広がっている。期待されている。このことから、東京ジョイポリスに行き先が決定されました。

さて、臼井地区子連に加入している子ども会の数が年々減ってきてしまっているという現状があります。平成20年に入ってから臼井地区子連に加入している子ども会数の変遷を示しています。

原因として、子ども会自体が解散消滅してしまう。または、子ども会自体は存在するが、臼井地区子連から脱退してしまうというケースがあります。

子ども会が少なくなっている、ということは何も臼井地区だけでなく佐倉市だけでなく全国で起こっていることでして、この背景には、世の中少子化となってしまう。共働き世帯が増えることにより忙しくなかなかなか子ども会役員の成り手がいないという現状があります。ある子ども会の年間行事です。毎月何らかの行事を行っています。これに加え、地区子連・市子連事業がある。

ここの子ども会は、子ども会活動を運営する保護者も多いため割と活発に活動をしています。

しかしながら、これが、地区に子どもが少ない、という地区があると保護者も少ないため、子ども会活動をやりきれない、ということになり、結果、子ども会が解散する、もしくは地区子連を脱退となってしまう。

臼井地区子連として活動回数は多くはないが、単子子ども会の活動より規模の大きい事業ができる。例えば先ほどご紹介した市子連事業である中央交流フェスティバルは1日でいろいろ遊べる。大勢の人が集まる。こういった事業は単子子ども会ではできません。

さらには、他の子ども会、他の学校との交流も持てます。これから実施の卒業バスハイクの段階では小学校が違っていても中学校でいっしょになるということがあると思います。

また、地区子連数が減少している現状があります。子ども会が新しく加入することはなかなか難しいのでせめて現状の子ども会、今のところ7団体ですが、これをなんとか維持していきたい。そのためには、先ほどご説明をした、地区子連の成果としていいところ・強みを生かすということを考えております。

いま社会全体において少子化がすすみ、それに対する特効薬はなかなかありません。そして、共働きをせざるを得ない状況となり親もなかなか忙しいという、そういった逆境のなか、がんばっている親を励まし支えていきたいです。この子ども会の活動がぜひとも子どもたちの健全な育成につながっていけるよう支援をしていきたいと思えます。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

委員長：

なにか質問等がありましたらお願いします。

委員：

臼井公民館の発表で考えさせられていたのですが、子どもの声が聞かれなくなっている中で子ども会と市子連との関わりについてお聞きしたく思います。市子連に入るのは任意とのご説明でしたが、どのくらいが加入しているのか。また、市全体としてどうなっていて今後どのように考えているのかについてお聞きしたいと思えます。入っていない率などについてお伺いしたいと思えます。正確ではなくてよいですが。

宮野主査補：

臼井地区では7つの子ども会が地区子連に加入していますが、根郷地区はもう少し数が多くなっております。佐倉地区と志津地区は徐々に減少傾向にあります。子ども会自体は存続していると認識しています。

委員：

臼井公民館の子ども会の事業についてですが、私は根郷地区で子ども会がとても活発だったところにいまして、地域で子どもを育ててもらった、役員として関わってきましたが、他のお母さんにも自分の子どもをみてもらいとても難かったと思っております。非加盟のところは2か所ございますが、こちらに

ついては何か働きかけをされているのでしょうか。また、なぜ非加盟なのか聞かせていただければと思います。

宮野主査補：

すみません。とくに働きかけはしておりません。

柳田館長：

地域によりますが、子どもが1人とか2人とかしかいない場合があります、その際には活動自体が困難になる場合がございます。時に応じて、広報へのアピール等に入ってきていただければと考えております。

委員：ありがとうございました。

江波戸館長：

追加で、中央公民館の例も話させていただきます。地区子連の加盟を検討する団体も皆無ではありませんので、実際の活動を見て貰う機会も提供しています。しかしながら、地区子連と市子連を両方行うというのは、子どもの数が少ないと携われるお母さんも少なくなって、なかなか活動を行うことが難しいというところがございます。そのような中で、入っていただく働きかけ等は、今後も継続して行って参りたいと考えております。以上です。

委員：ありがとうございました。

委員長：

何か他に意見はございますでしょうか。

委員：

どの館も地域の特色を活かした講座を開催していただき、ありがとうございます。家庭教育事業は学校側から見てもとても大切な事業であると考えておりますので、続けていただければと思います。

私は志津公民館館祭りに行ってきましたが、書道であるとか製作物などがレベルが高くて驚きました。防災のブースについても感心したところでございま

す。地区の人口が多くて大変だと思えますが、充実するように頑張っていたければと思います。

委員長：

その他に、なにか質問等がありましたらお願いします。

質問がなければ、この後、5分程度休憩を取りたいと思います。

この間に公民館長と担当職員を除く他の職員につきましては、公民館主事等研修会を別室で行うこととなります。このため、資機材撤去と職員退出のため、5分ほど休憩時間をとらせていただきたいと思います。

発表者の方、おつかれさまでした。どうもありがとうございました。

それでは、再開は、35分とさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいいたします。

<休憩>

委員長：

定刻となりましたので、公民館運営審議会を再開します。本日、最後の議事平成29年度佐倉市公民館運営審議会計画の案について説明をお願いします。

江波戸館長：

中央公民館長の江波戸と申します。平成29年度佐倉市公民館運営審議会計画案について説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。例年どおり公民館運営審議会の会議が4回、「平成29年度印旛郡市社会教育振興大会」と「第69回千葉県公民館研究大会」との2回を含めまして計6回の計画で考えております。

第1回目は5月26日、和田公民館で第1回公民館運営審議会を予定しております。そして、8月26日には富里市の中央公民館で「印旛郡市社会教育振興大会」が開催されます。

続いて、10月27日には第2回公民館運営審議会が志津公民館を会場に行われる予定です。

11月15日には第69回千葉県公民館研究大会が千葉市の蘇我コミュニティセンターで開催されます。こちらの方は、例年どおりですと午前中に講演会を

行いまして午後に分科会を行う形になるかと思えます。

そして翌1月24日に、「来年度市民カレッジについて」と「平成30年度公民館事業に向けて」を予定しております。

そして、29年度最後が2月26日でございます、「平成29年度公民館事業評価について」と「平成30年度佐倉市公民館運営審議会計画(案)」について中央公民館で予定しております。ご多忙とは存じますが、ご協力を賜ればと思います。よろしく申し上げます。以上です。

委員長：

なにか他に質問等がありましたらお願いします。ないようですので、本日の議事は以上となります。委員の皆様におかれましてはお疲れ様でした。